



栃木県畜産試験場 畜産環境研究室
眞方 優



○職場の紹介

栃木県は、乳生産量が全国2位ということで、酪農県というイメージが強いのですが、他の家畜でも粗生産額は全国有数であり主要な作目となっております。畜産試験場は乳牛以外の家畜及び畜産環境保全についての試験研究を企画経営部、畜産技術部(肉牛研究室、中小家畜研究室、畜産環境研究室)の2部3研究室体制で実施し、また、その他にも優良種畜・種卵、受精卵等の配布などをおして、畜産経営者を総合的にバックアップしております。私の所属している畜産環境研究室でも、畜産の環境保全に関する試験研究以外に堆肥共励会等の成分分析を行うなどして、家畜ふん尿処理の促進を図っています。これからも、畜産の環境保全のための更なる技術開発等を行い、畜産農家及び県民のニーズに柔軟に応えることができる開かれた試験場を目指していきます。

○担当分野の紹介

畜産農家周辺での生活へ直接影響を与える環境問題として特に挙げられるのがハエの大量発生と悪臭揮散です。私どもはこれらを防止する糸口を探すため、2課題の試験に取り組んでいます。1つめは「天敵を利用したハエの総合防除システムの確立」です。畜舎内でのハエの発生は主に堆積ふんが発生源と考えられています。そこで、これらの幼虫や卵を捕食、またさなぎに寄生するといった天敵を畜舎内から見つけ出し、増殖させ、これらを利用することで、ハエ防除のための大量薬剤使用等による環境への負荷を低減させようと試験を開始しました。試験初年度である今年、県内3ヶ所の養鶏場で鶏ふん中に生息する昆虫を調査しています。現在、他県の試験結果等でガイマイゴミムシダマシという穀物昆虫が捕食天敵として注目されていますが、今回の調査でもこの昆虫が多く生息する農家では殺虫剤等の薬剤を使用しないにも関わらず秋バエの大量発生が見られないという興味深い結果が得られました。今後はこの昆虫を含めた数種の昆虫で捕食等の比較試験を行い、ハエの天敵として有効な昆虫を見つけ出し、それらの利用システムを開発していきたいと考えています。2つめは(財)畜産環境整備機構が実施している「簡易低コスト家畜排せつ物処理施設開発普及事業」のなかで、乾燥、ばっ気という2つの異なるスラリー処理方法の施設実証試験として悪臭発生調査、処理物の腐熟判定などの分野を担当しています。県北の酪農は自然流下式牛舎が多く、スラリー処理方法の早期確立が望まれているのですが、乾燥、ばっ気ともに季節による完成処理物の腐熟度の差が大きいため、今後は安定した処理が行える運転方法の確立を目指したいと思っております。

○現場の視点

県の試験は各農家でどれだけ成果を活かせるかが大きな鍵になると思うのですが、私は学生時代、全く農家と触れ合う機会がありませんでした。より、現場での試験は、環境問題という枠を超え、農家を知る大きな勉強の場となっております。ふん尿処理施設設置等の環境課題は非常に多くの要因が関わってくる上、判断を誤ると経営さえ脅かす要因ともなりかねません。1年目に掴んだこの恵まれたチャンスを十分に活かして、現場の視点を常に読み取り、試験成果を畜産経営者に適確な形で提供できる能力を身に着けたいと思っております。

○今後の抱負

私は、今年新規採用で畜産試験場の畜産環境研究室に配属となりました。まだ勉強不足を拭いきれず、農家の方々の質問に答えられない苦しい日々が続いています。もっとこの職場で多くの有意義な知識、経験を積み、今後、どのような職場で働くことになっても「環境のことなら・・・」と言えるような技術者になれるよう励んでいきたいと思っております。